

株式会社メッツ研究所

これまでの業務内容の一端ご紹介

2019年度

目次

■自然環境保全と地域づくりプロジェクト

- ー屋久島 ～山あり谷あり、エコツーリズム推進～
- ー奄美 ～島々を結び付ける世界自然遺産トレイル～
- ー重要里地里山 ～危機にある「ふつうの自然」の維持管理～
- ー阿蘇みらい ～草原が被った自然災害からの創造的復興～

■海外都市交通プロジェクト

- ーカンボジア国プノンペン 都市交通改善プロジェクト
- ーカンボジア国プノンペン都 総合交通計画プロジェクト(開発調査型技術協力)
- ーカンボジア国プノンペン 交通管制システム整備計画(100信号プロジェクト)
- ーパキスタン国ラホールセントラル地区 交通管理能力強化プロジェクト
- ーカンボジア国 ADB地方道整備に伴う交通安全プロジェクト

業務内容紹介（自然環境保全と地域づくりプロジェクト）

屋久島～山あり谷あり、エコツーリズム推進～

地域に寄り添い、時代の変化とともに顕在化してくる課題と向き合っ、解決策を提案

当社の屋久島との関わり

発注者：国土庁、環境省、国立公園協会、
鹿児島県、屋久島環境文化財団

- 島の産業活性化に関する調査(86)
- 環境文化村マスタープラン策定調査(91～93)
- 環境文化村中核施設基本計画調査(94)
- 環境文化村環境学習ソフト制作(95～97)
- 共生と循環の地域づくりモデル事業(00～01)
- ウミガメ産卵地保管理体制検討調査(03)
- エコツーリズム推進モデル事業(03～05)
- 里地におけるエコツアー検討業務(06～08)
- エコツーリズム推進業務／ウミガメ観察ルール(08)
- エコツーリズム全体構想策定支援業務(09～10)
- 屋久島環境文化財団長期方針策定調査(14～17)
- 自然資源の持続的な活用方策検討業務(19)

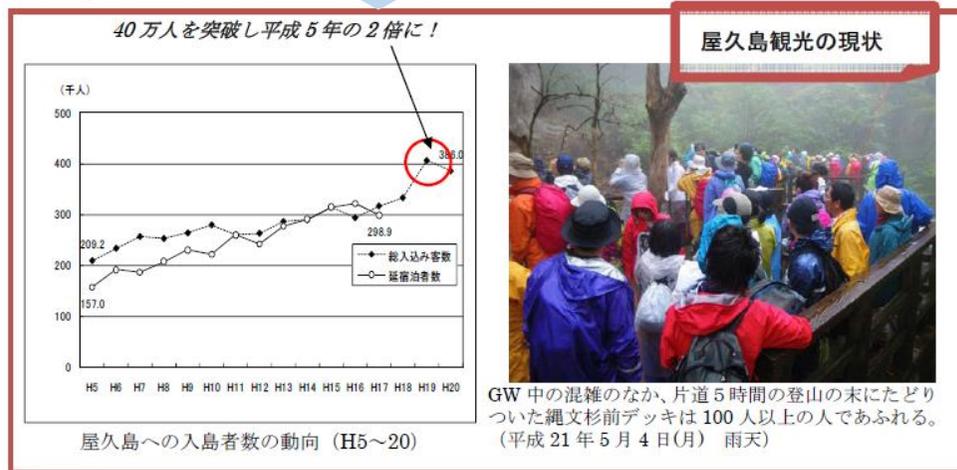
<現在のプロジェクト>

- ◎利用者負担による自然資源の保全や整備を目指し、
綻びの見える「入山協力金」、「ウミガメ観察協力金」制度の再構築について検討
- ◎地域が目指す方向とこれまでの議論の積み重ねを踏まえ、利害関係者の合意点を探る

・後進地域、本土並みを目指す離島振興からの転換

・並外れた自然を地域の個性と捉え、「共生と循環」を地域活性化の原動力にしようとする「屋久島環境文化村構想」

・構想づくりの議論から、日本初の世界自然遺産登録へ



・山岳部過剰利用の混乱から、「ガイド登録制度」、「優れた自然地域利用ルール」、「里のエコツアー」の検討、具体化

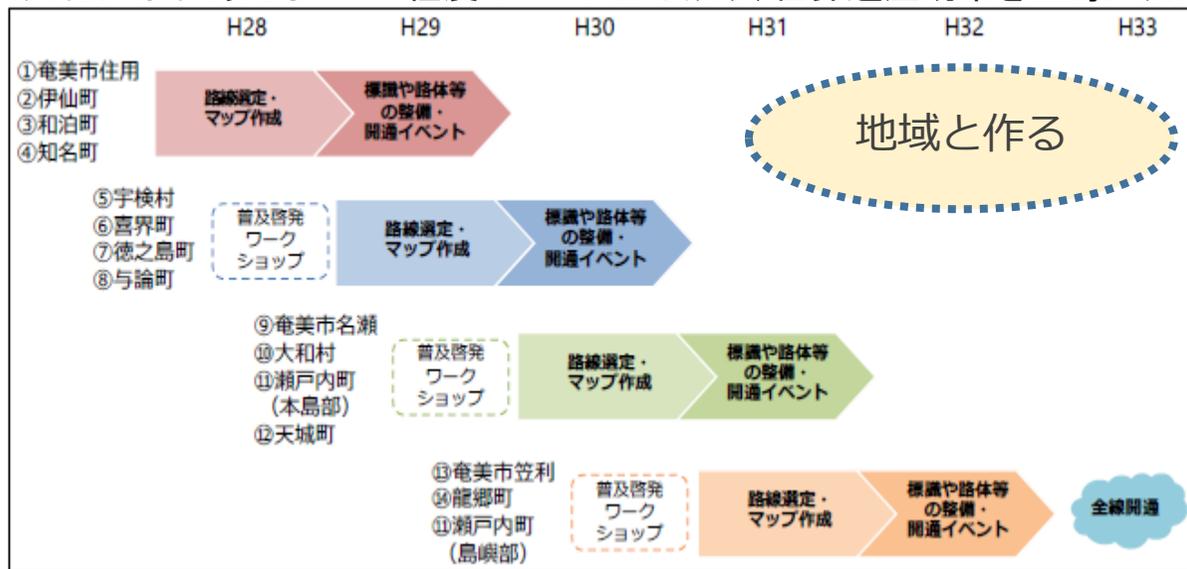
・「エコツーリズム全体構想案」策定、議会の反対で挫折

業務内容紹介（自然環境保全と地域づくりプロジェクト）

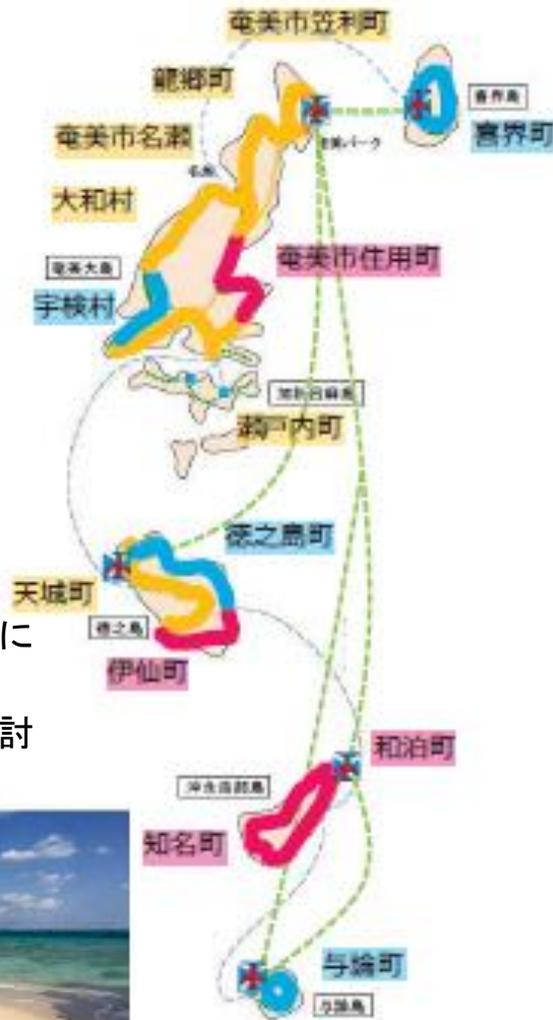
奄美～島々を結び付ける世界自然遺産トレイル～

地域固有の自然・文化の中から持続可能な発展に向けた資源を発掘し、光を当てていく

世界自然遺産奄美トレイルは、奄美群島をつなぐ長距離の自然歩道。群島の自然や文化にふれあえる10km程度のコースから成り、世界遺産効果を全島に及ぼす役割。



トレイルコース（イメージ）



資源発掘、コースの維持管理、来訪者のおもてなしに地域の人々の関与は不可欠。
全体のコンセプト、統一的なサービス水準設定を検討しながら、プロセスを管理するのが私たちの役割。



業務内容紹介（自然環境保全と地域づくりプロジェクト）

重要里地里山～危機にある「ふつうの自然」の維持管理～

国土レベルの生物・地理情報と現場の知見を効果的・効率的に結び付ける調査手法を模索

当社の里地里山調査との関わり

・里地里山の維持・保全に関する特徴的な取組事例の収集（全国アンケート）・とりまとめ（全国600件）

・「里地里山保全行動計画」の策定（2010）

・行動計画の推進に係る検討（広報資料、自己点検シート等）

・「重要里地里山500」（略称）の選定（2014）
データベース化と普及啓発

<現在のプロジェクト（2018～）>

◎目的：全国の二次的自然地域に生息する絶滅危惧種の分布情報を把握し、保全方策を検討することが必要。
このため、手がかりとして「重要里地里山」「重要湿地」を対象に生物生息状況の詳細調査を実施。

◎調査方法：関東7都県で、分類群ごとの地域の有識者72名にヒアリングし、結果から情報拡充のための手法を検証。

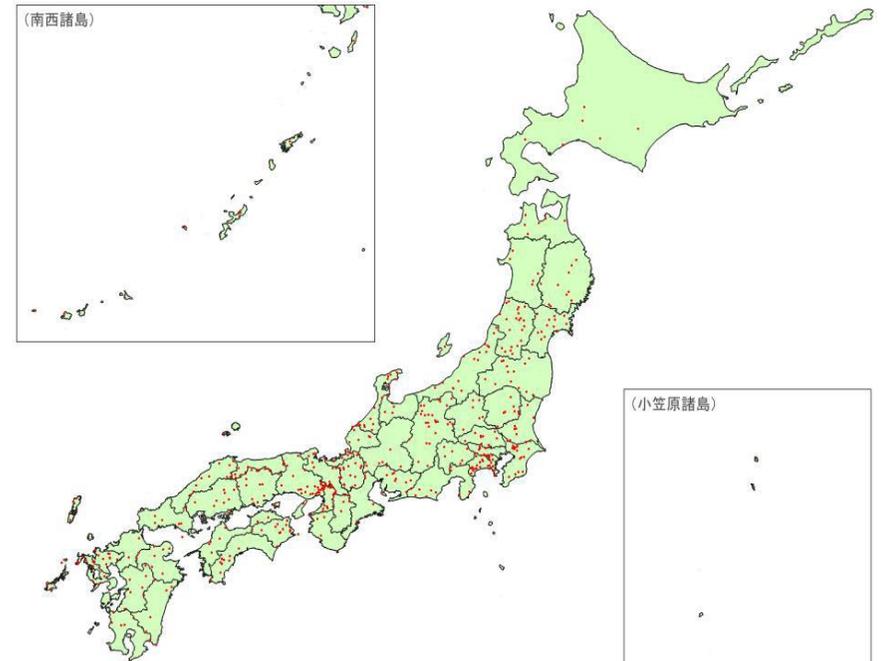
明らかになった分析・検討課題

- ◎「生きもの情報」と「場の情報」の関連性の解明
- ◎絶滅危惧種情報から里地里山等の二次的自然全般に関する保全施策への展開（そのための調査結果活用）
- ◎全国情報と各地の現場情報との相互フィードバック

里地里山とは

○国土の約4割を占め、長い歴史の中で様々な人間の働きかけを通して形成され維持されてきた。

○特有の生物生息環境として重要であると同時に、農林業生産、国土保全、良好な景観、多様な文化の伝承等の観点からも重要な役割を担っている。



■「生物多様性保全上重要な里地里山（略称「重要里地里山」）」500件 ※地図上の赤い点は選定地を示したもの

業務内容紹介（自然環境保全と地域づくりプロジェクト）

阿蘇みらい～草原が被った自然災害からの創造的復興～

空からの情報と地上からの情報をつなぎ「見える化」した上で、復興のビジョンを提案

当社の阿蘇草原との関わり

- 「参加型国立公園環境保全活動推進事業」(環境庁/96～98)からスタートし、モデル事業等を実施
- 「阿蘇地域自然再生推進計画調査」(03～04)を経て「阿蘇草原再生協議会」の設立・運営を支援
- 草原再生全体構想を策定(05)後、阿蘇市による「地域活性化総合特区構想」や草原維持に貢献する農産品販売促進、エコツアー・学習プログラムづくりなどにも関与

取組の概要（視点）

①草原が有する価値の理解促進と認識共有

→草原の新たな価値づけと普及啓発に向けた取組
(各種会合開催・草原実態調査等)

②持続可能性を担保するための組織と仕組みづくり

→定期会合開催による組織化
→全体構想策定と活動計画の仕組み
→募金事業の立ち上げ
→関係行政機関との連携強化等

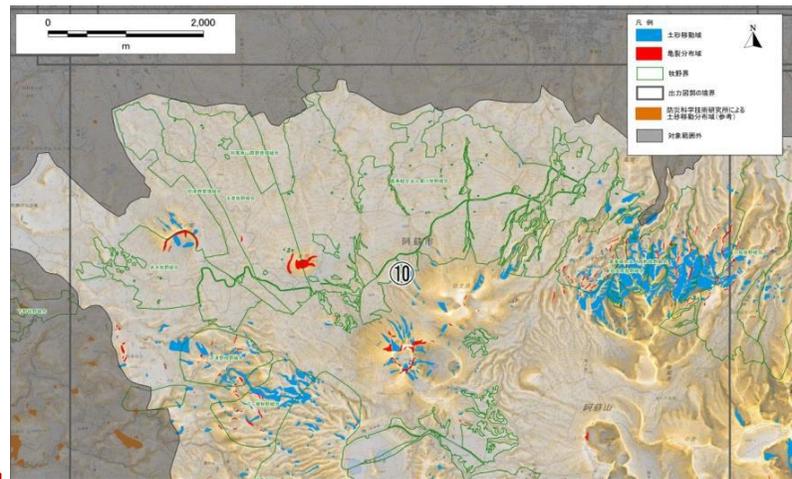
③取り巻く状況の変化に対応した活動の展開

(例)
→草原学習プロジェクトの推進
→災害復興に向けた取組等

2016年4月に発生した熊本地震の直後、環境省は3つの緊急調査を実施

- ①空中写真の判読による土砂崩壊等の被害把握(アジア航測)
- ②協議会加入91人の牧野組合長ヒアリングを通じた被災状況と復興への意向把握(メッツ研究所)
- ③関係者ヒアリングによる湧水・温泉への影響把握(プレック研究所)

有識者懇談会を設置し、3回の会合後、7月下旬に「国立公園『阿蘇』みらい創造懇談会提言」をとりまとめる



480km²の草原等エリアの判読から
○土砂移動域: 470.91ha
○亀裂分布域: 61.9ha を確認(アジア航測)



カンボジア国プノンペン都市交通改善プロジェクト

プロジェクト実施体制

- ・メッツ研究所(単独)受注
- ・メッツ+交通管理技術協会で実施
- ・2006年～2010年

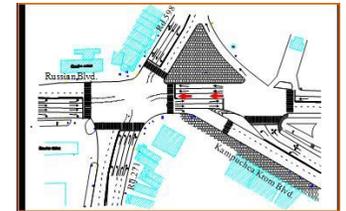
プロジェクト概要

- ・急速な経済成長による人口・自動車・二輪車の増加により渋滞、交通事故が社会問題
- ・都市交通の改善を図るために
 - －主要交差点・道路改良 (Engineering)
 - －運転者教育 (Education)
 - －交通取締人材育成 (Enforcement)の3つの“E”観点から交通状況の改善を図る

アウトプット

E1: Engineering. (主要交差点・道路改良)

- ・道路幅員の拡幅
- ・信号機の設置
- ・中央分離帯等の設置
- ・右左折車線追加
- ・道路標識、標示の設置



E2: Education (運転者教育)

- ・交通安全キャンペーン
- ・座学



E3: Enforcement (交通取締人材育成)

- ・座学 (交通警察等への指導)
- ・交通安全セミナー



カンボジア国プノンペン都 総合交通計画プロジェクト(開発調査型技術協力)

プロジェクト実施体制

- ・メッツ研究所が主幹会社として受注
- ・メッツ+オリコン+IDCJ+トーニチ共同企業体で実施
- ・2011年～2014年

プロジェクト概要

- ・カンボジアの首都プノンペン都の2035年を目標年次とした都市交通マスタープランづくり
- ・最優先プロジェクトとして
 - －軌道系システムの整備
- ・短期のアクションプランとして
 - ①100信号システム整備を中心とした総合交通管理施策
 - ②中期(2020年)までに10路線のバス運行計画を提案

アウトプット

1. 軌道系システムの整備

東西コリドー(空港-都心)への軌道系システム摘要に関するプレF/Sを実施



2. 100信号システム整備を中心とした 総合交通管理施策

- －信号システム整備
- －歩道整備
- －一方通行システム・駐車施策
- －運転者教育・交通人材育成



3. バス交通の導入

- －短期(2016年)までに5ルート of バス運行の実現
- －中期(2020年)までに10ルート of バス運行を実現⇒達成



カンボジア国プノンペン 交通管制システム整備計画(100信号プロジェクト)

プロジェクト実施体制

- ・メッツ研究所が主幹会社として受注
- ・メッツ+建設技研インターナショナル(CTII)で実施
- ・施工業者は三菱商事+住友電工
- ・2014年～2018年

プロジェクト概要

- ・都市交通マスタープランで位置づけられた100信号システムの整備
- ・主に、施主であるプノンペン都に代わって、施工業者入札、施工監理業務

アウトプット



写真1. もともと信号がなかった交差点(2014年撮影)交差点内で錯綜している



写真2. 信号システム稼働後の交差点(2019年撮影)
交通量は増加したが錯綜もなくなり安全・円滑な交通流を実現

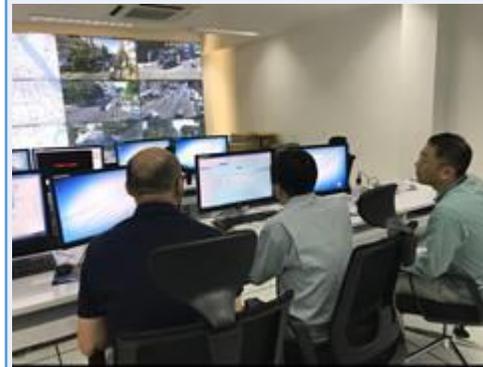


写真3.
完成した交通管制センター



写真4. 最終検査時の様子

パキスタン国ラホール中央地区 交通管理能力強化プロジェクト

プロジェクト実施体制

- ・メッツ研究所が主幹会社として受注
- ・メッツ+建設技研インターナショナル(CTII)で実施
- ・2014年～2018年

プロジェクト概要

- ・パキスタン第2の都市、人口約1千万人のパンジャブ州都ラホール市
- ・有効な交通管理が行われていないため、交通渋滞は悪化
- ・ラホールにおける交通混雑緩和に必要な交通管理能力の向上を目的に、交通管理・交通円滑化事業を中心とした対策の企画立案及び実施能力を強化する活動を実施

アウトプット

成果1	1-1交通管理研修コースの参加者に対する評価テスト 1-2研修計画を作成 1-3研修資料を作成 1-4 研修を実施 1-5 研修参加者の評価テストを実施 1-6関連組織への技術移転のためのセミナーを開催	
成果2	2-1 ラホール市中心部における交通調査を実施 2-2 交通管理の課題を特定 2-3 パイロット事業を計画 2-4 パイロット事業を実施 2-5 パイロット事業の有効性評価の交通調査を実施 2-6「VISSIM」を使用しパイロットプロジェクトを評価 2-7 TEPAの組織的枠組みの現状を調査 2-8TEPAの組織改善計画を作成 2-9 組織改善計画の実施をモニター 2-10 対策を含めた交通管理計画を策定	
成果3	3-1 既存の「ハンドブック」と「マニュアル」をレビュー 3-2パイロット事業の経験を考慮した「ハンドブック」と「マニュアル」を作成。 3-3「ハンドブック」と「マニュアル」を関連機関に配布 3-4 技術移転のためのセミナーを開催	
成果4	4-1 ラホール市中心部における交通管理計画を策定 (歩行者交通改善計画、交通需要管理計画を含む)	

カンボジア国ADB地方道整備に伴う交通安全プロジェクト

プロジェクト実施体制

- ・PEC(韓国のコンサルタント)の下請
- ・メッツがPM(1人)+カンボジア人コンサル(15人)計16人のチームで実施
- ・2017年~2020年(実施中)

プロジェクト概要

- ・カンボジア10州1,200kmに及ぶアジア開発銀行(ADB)資金による地方道整備に伴う交通安全対策で、主眼は子供とコミュニティの交通安全環境づくり
- ・プロジェクトエリアでの交通事故を減らす

アウトプット

- 1.地方道整備の受益者に対する交通安全教育
- 2.データ収集と分析(主に交通事故データ)
- 3.学校に対する交通安全対策(セーフスクールゾーン計画と実施)
- 4.コミュニティレベルでの交通安全アクションプランづくり
- 5.交通安全技術

[Rural Roads Improvement Project II] CS3 Consulting Services of Sustainable Community Based Road Safety Program

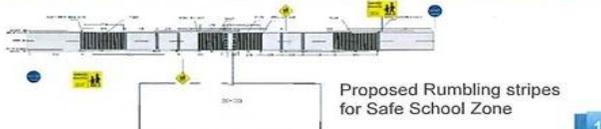
7. Output 3: Safe School Zone Planning and Implementation

Concept of the Safe School Zone

1. Empowering Students to be Agents of change

2. Creating a Safe School Environment through Community Participation

3. Setting the proper road safety culture for Teachers, Parents and Students by means of training and technical assistance

4. Apply Road Safety Engineering measures as a means of eliminating road crash and fatalities


Proposed Rumbling stripes for Safe School Zone

ec 14